

2022年度 日本青年会議所 建設部会

福島ブロック建設クラブ 代表所信

2022年度 福島ブロック建設クラブ
ク ラ ブ 代 表 草 野 祐 介

[スローガン]

『結ぶ』

～次代へつなぐ組織へ～

[はじめに]

新型コロナウイルスの影響が出始め3年の月日がたち私たちの生活様式も大きく変わりました。また、東日本大震災を思い起こさせるような大きな地震など災害が頻発する昨今、災害対応の観点だけでも建設業界の環境は変わってきています。人材不足・若手の育成不足が叫ばれて幾年もたちますが、まだまだ大きな活路を見出すには至っておらず、今後の明るい建設業界を創出していく我々が建設業界の魅力を多くの人へ発信していく為にも様々な交流を通して各会員の資質向上を目指し、次代へとつなげていくことが必要であります。

[会員交流]

近年新型コロナウイルスの影響もあり直接的な会員交流はなかなかできていない現状があります。ITツールを利用した手法によりできうる最大限の交流は行ってきましたが様々な交流関係を構築していくには課題が残ります。本年は様々な状況を最大限考慮しつつもリモート以外の「会員交流」も必要不可欠だと考えます。時代につなぐ組織を創っていく為にも多くの会員と交流の機会を創出してまいります。

[会員拡大]

本会だけではなく、様々な団体においても人員の不足は大きな問題の一つです。さらに新型コロナウイルスの影響によりこの問題は大きくなっています。この課題は早急に取り組まなければ組織の弱体化だけではなく、今まで引き継がれてきた伝統や情報も失われていき、最終的には組織自体の崩壊を招いてしまいます。そうならないためにも本年度は会員拡大

に力を入れ、新規会員情報の共有をし、クラブ会員一丸となって会員拡大を目指しましょう。

[企業連携]

私たち建設業に携わる業種は非常に多く各企業との連携なくしては工事の完成はありえません。多くの業種とのつながりは様々な仕事につながり、建設業が活発に動けばより大きな経済効果をもたらします。様々な企業の集まる私たちが交流を通しつながることで社会全体の利益を生みます。そのためにも企業連携は必要不可欠なのです。

[組織連携]

国や地方自治体、民間企業に必要とされる組織になるには、広大な地域に分かれる福島の各所に点在する様々な問題に対する情報共有と問題解決力が必要です。多くの業種からなる私たちが建設クラブのネットワークを駆使し、情報交換と共有を行い、組織連携を充実させていくことが、国や地方自治体、各種団体や大切な地域住民に対してさらに必要とされる組織になっていくうえで重要です。

[魅力発信]

建設業が多くの若者が目を向けてもらうには、我々の仕事に対する情熱とものづくりに対する達成感を多くの若者へ発信していくことが重要です。建設業に携われる我々がこの魅力を発信し若者に知ってもらうことで担い手を増やし、明るい建設業へ向けて共に行動しましょう。

[不測の事態への備え]

災害だけではなく新型コロナウイルスの影響もまだまだ終息の道筋も見えない状況です。災害時においても我々建設業は復旧・復興活動に必要な役割を担っています。今後は**with** コロナを考え行動し対応していくことが肝要であると考えます。国や、地方自治体、各地建設部会や関係諸団体との連携を強固なものとし様々な対応のとれる組織構築を行ってまいります。

[広報強化]

多くの会員を拡大するにあたり広報の強化は重要であります。様々なツールがあるからこそ発信に十分注意し、より効果的な手法と時期を選定し我々の運動を発信することで、様々なビジネスにつながり本会の魅力を発信することで多くの会員拡大につながります。